



ごみや落書きのない、美しい地域づくり

# 地域の防犯 まちづくり



パトロールは楽しみながら



地域の中で、情報交換



パトロール活動しよう

# 安全・安心ハンドブック（地域編）

## 地域の防犯まちづくり 目次

●横浜市の防犯に対する考え方	1
パトロール活動をしよう	2
●防犯パトロールのきっかけ	
●防犯パトロールのやり方	
●防犯パトロールの盛り上げ方	
地域をきれいにしよう	8
地域のつながりを育もう	10
まちづくりを考えよう	12
安全点検のポイント	14
●問い合わせ先	16
●不審者を見かけたら……	

横浜市では、市民とともに安全・安心で快適な地域を実現していくため「よこはま安全・安心プラン」を策定し、市民の取組に積極的に関わり、支援を進めていこうとしています。

このハンドブックは、プランの実践編として、地域で暮らす皆様が協力し合って取り組んでいって欲しい基本的な取組について、まとめたものです。地域の皆様に読み、地域づくりの活動に活用していただきます。



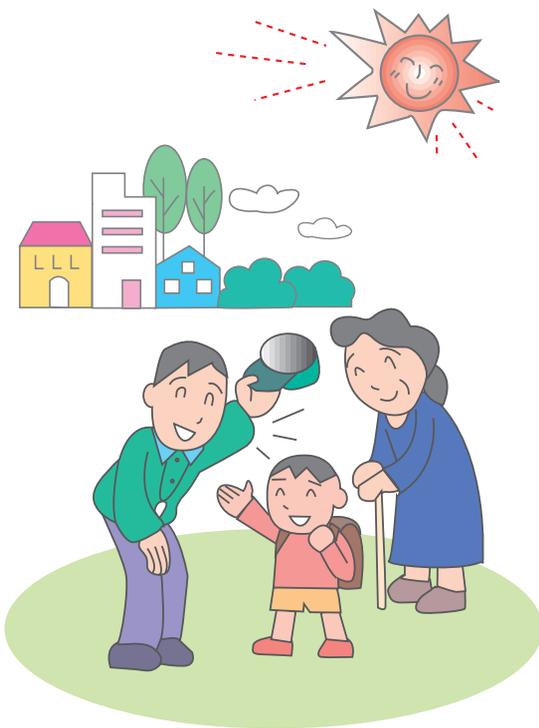
## 横浜市の防犯に対する考え方

横浜市では、地域における自主的な取組が力を合わせることにより、犯罪を犯そうとしている人を寄せ付けない、犯罪に強く快適な地域を地域の皆様と一緒につくることを目標としています。

このような目標を踏まえ、以下の基本方針を参考にしながら、「地域の防犯まちづくり」を進めていきましょう。

「よこはま安全・安心プラン」の基本方針

- 1 市民一人ひとりが自覚し取り組む
- 2 地域で力をあわせみんなで取り組む
- 3 様々な工夫を行い継続的に取り組む
- 4 地域の状況に応じて取り組む



### このハンドブックの基本となる考え方

#### ● 防犯まちづくり

住民・警察等の様々な主体により従来から行なわれてきたパトロールなどのソフト面の活動（防犯活動）と、住宅・学校・公共施設等の整備や管理等のハード面の取組（まちづくり）を相互に組み込み、より高い「安全・安心」を目指すものです。

#### ● 割れ窓理論

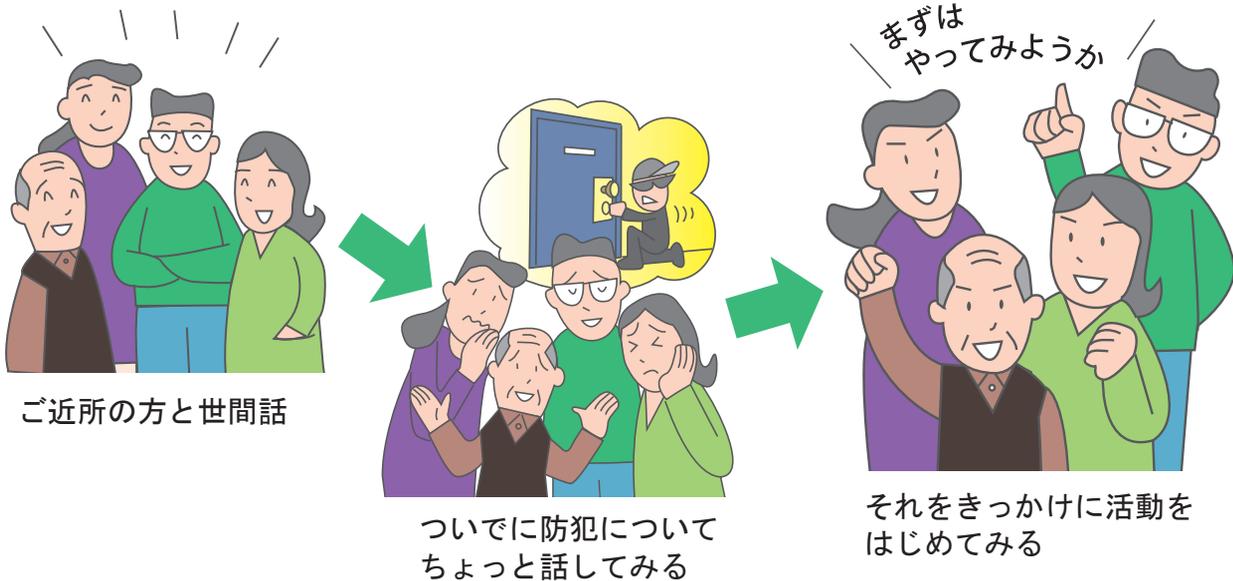
建物の窓ガラスを1枚でも割られたままにしておくと、外部からは、その建物ひいては地域全体が管理されていないと認識され、地域全体が荒れ、犯罪が多発していくという考え方です。防犯活動以外の、落書き対策やごみ出しルールの徹底を図るといった取組も、防犯上有効です。



防犯活動を行なっている市民の皆さんの多くは、「治安が悪化した」「自分の地域で犯罪が起きた」といった現状を受け、「安全・安心な地域を取り戻したい」という思いから活動を始めたようです。まだ、防犯活動の取組が見られない地域でも、このような思いを抱いている住民の方は、多数いるのではないのでしょうか。

防犯パトロールは、地域の人が誰でも手軽に参加でき、しかも犯罪を未然に防ぐのに効果的な、防犯活動の代表的取組です。ここでは、地域に暮らす住民の方の思いをパトロール活動へと結びつけた「きっかけ」を紹介します。

### 個人のちょっとした一言を「きっかけ」にしましょう



#### 「お茶会」がきっかけになった例

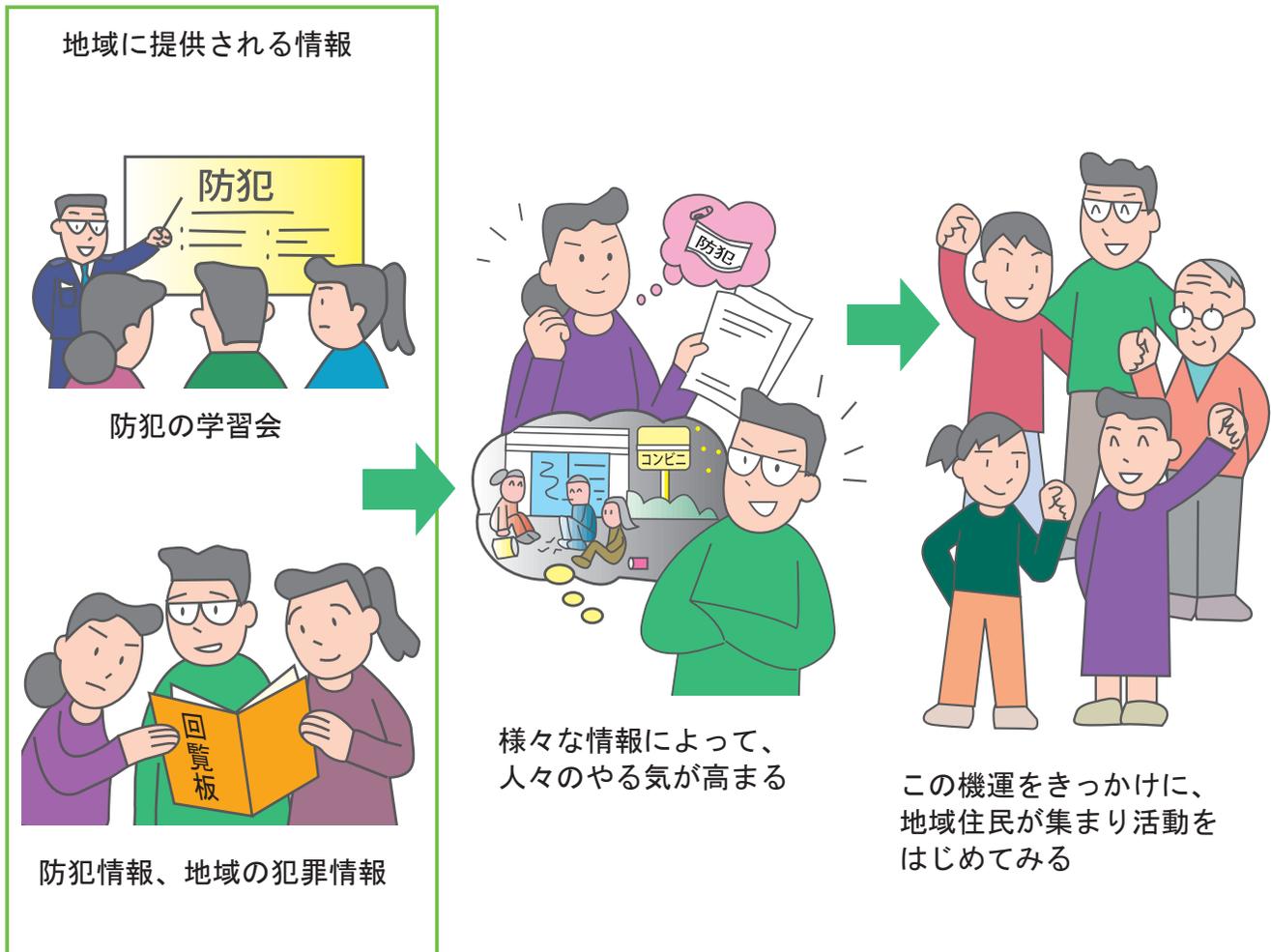
ある自治会では、雨や雪、夏場の32度を超えるような暑い日を除いた平日の夕方にパトロールを実施しています。きっかけは5、6人でお茶会をしていた時に、空き巣が多発していることが話題にあがったことです。

その場でパトロール活動の話がまとまり、回覧板で人員を募集したところ、30名前後の参加者があつまり、現在の活動につながっています。

パトロールのほか、自分の家で行っている防犯対策について情報交換も行っています。



## 地域に提供される様々な情報を「きっかけ」にしましょう



### “防犯”を目的に横のつながりができた例

区役所から防犯活動の重点地区と指定されたことをきっかけに、防犯部会の会合に連合町内会長や防犯指導員、女性防犯隊、地区防犯連絡所所長、地区の交番警官等が参加することとなりました。そのため、地域で幅広く、様々な防犯についての情報共有が可能となりました。

また、平常の防犯パトロールはもちろんのこと、お祭りなどの各種イベントに合わせた夜回り、防犯スタンプラリーやチラシの配布など、多岐にわたった活動が可能となりました。

### チームで、目立つ格好で



- 最低でも2人以上、できれば5人程度のチームでパトロールしましょう。
- 時には大人数でパトロールチームを組み、地区内外に大々的にアピールすることも効果的です。
- 事件や事故に遭遇したときのことも考え、チームのリーダーや通報係、救護係などの役割分担も決めておきましょう。

### ステップアップ！！ 防犯パトロール

#### その1 パトロール中の挨拶、忘れずに

巡回中には、散歩をしているお年寄りや登下校中の子どもたちをはじめ、出会った人へ挨拶をしましょう。自分たちの活動を地域の皆さんへPRでき、また地域全体の防犯意識の向上にもつながります。

また、犯罪企図者にとっては、近所の住民の方に声をかけられたり、じろじろ見られたりするの、最も嫌な行為であると言われています。

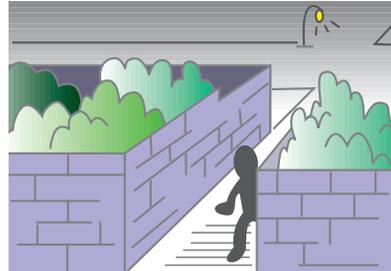




## 「犯罪発生場所」 + 「不安を感じる場所」を巡回



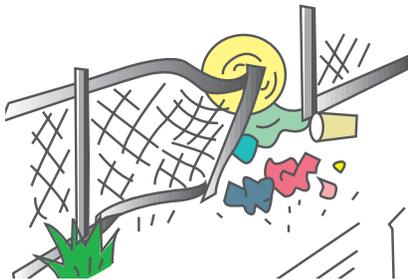
通学路、学校とその周辺



照明が少なく暗い道路



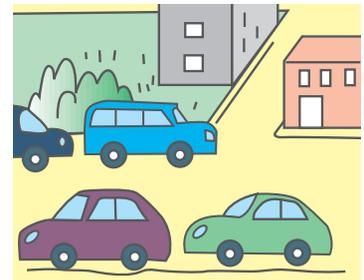
見通しの悪い公園



頻繁にごみが散乱している場所



空き家、空き地



路上駐車のある場所  
(空き巣犯潜伏の可能性も)

- ・ 犯罪が発生した場所は、発生した時間帯にあわせて行くことも大切です。(警察が発信する犯罪情報が参考になります。お近くの警察署の生活安全課におたずね下さい。)
- ・ 昼間、夜間、登下校時など、時間帯に応じてルートを選びましょう。

## ステップアップ！！ 防犯パトロール

### その2 反省会をしましょう



パトロールの後に反省会等を開き、その日の状況の確認や、次回のパトロールに向けた作戦などを話し合ってみましょう。この反省会を楽しみひと時にすることで、「次回も参加しよう」「友人を呼んでこよう」など、皆さんの参加意識を高めることができます。

また、パトロールの結果を、日誌等に記録してみましょう。時間、コース、気付いたこと等の記録を残し、他のメンバーと情報を共有しましょう。

防犯パトロールでも「継続は力」です。しかし、そう簡単にできることではありません。活動団体や参加者からは、「メンバーの活動に対する熱意の維持が難しい」「活動がマンネリ化してつまらなく感じることもある」といった声が聞かれます。また、無理のある活動で参加者が疲れてしまい、活動が持続できなくなってしまう場合もあるようです。

活動は、無理せず、楽しく取り組んでいくことがポイントです。ここでは、活動を盛り上げ、継続していく「コツ」を紹介します。

### 力を抜いて、自然に取り組んでみましょう

無理をせず、自然に取り組むための合言葉は…

- ・「活動時間を限定せずに、空いている時間に取り組む」
- ・「毎回一定の人数でなくても良い」
- ・「やらない時があっても良い」

みんなで話し合って目標を決めるのも効果的！

例：延べ参加人数、年間実施回数、「空き巣◎%減」等

※日常生活の中で、何かの「ついで」に防犯に取り組むことは、気軽で取組やすく、また、常に地域の目が光っている点で、犯罪抑止にも効果的です。



### 「無理せず楽しくパトロール」の例

ある自治会では、公募による防犯パトロール員が、朝夕のジョギング、ウォーキング、買い物、愛犬との散歩の時など、各自の体調や日課に合わせて自由に防犯パトロールを行なっています。パトロール時は、「腕章」「防犯ブザー」「ボランティア防犯パトロール登録証（登録番号・注意事項・通報の仕方等が記載）」を携行しています。

町内会はパトロールがスムーズに活動できるようにサポートする役割を担い、住民一人ひとりが日常生活の中に防犯パトロールを取り入れた形となるよう、心がけています。



## 色々な楽しみを見つけながら、取り組んでみましょう

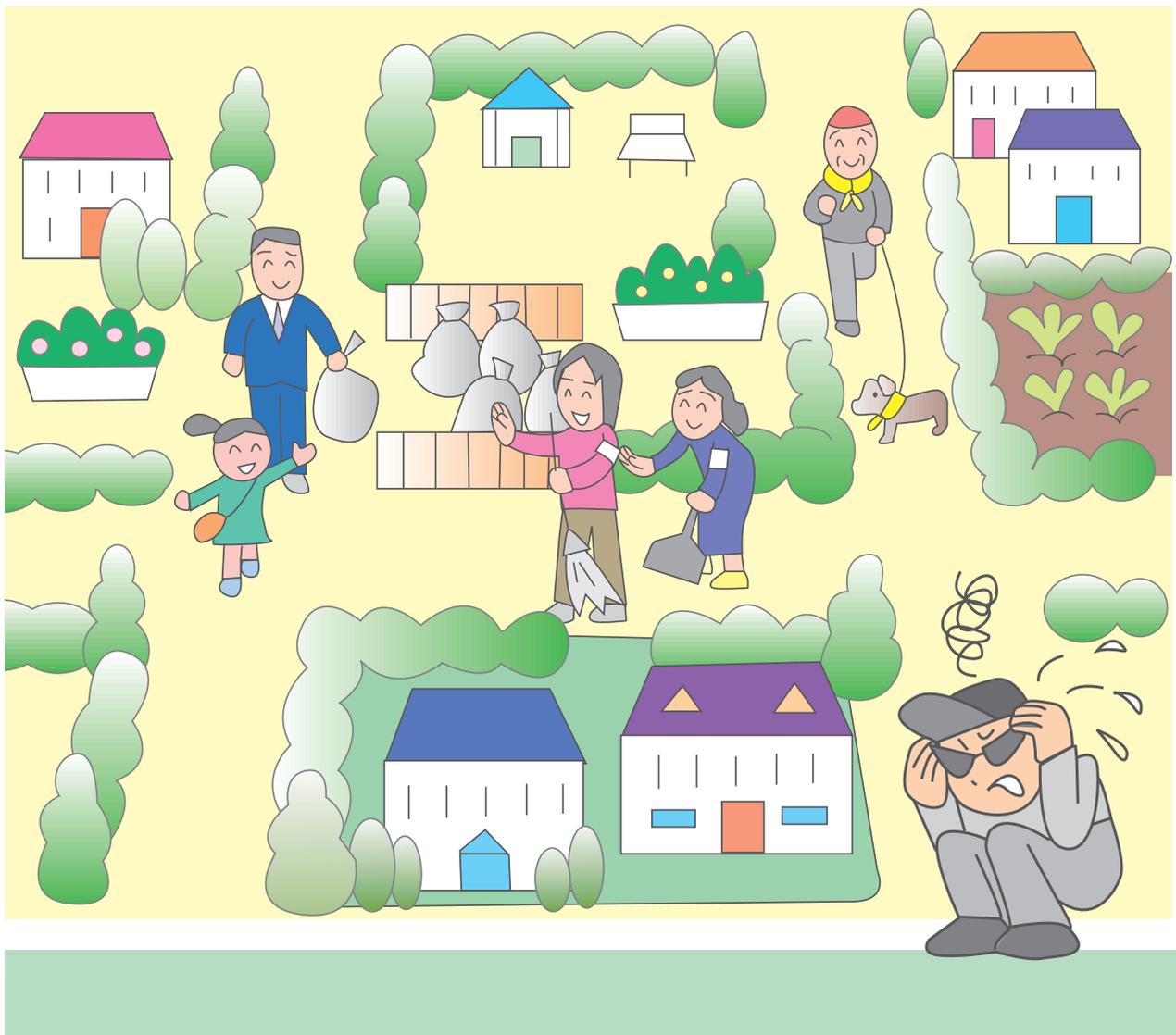


### 防犯活動に”楽しみ”を取り入れている例

ある地域でのパトロールは、集合場所、時間のみを決めて集まった人たちだけで実施しています。1人しか集まらなかったときは中止にしていますが、今まで中止はありません。”防犯”という目的のほかに「個人の健康」「地域の親睦」として皆で楽しめるウォーキング大会、音楽鑑賞会、お花見、といったイベントも定期的に行っています。これらの会には会員以外も多くの参加があります。

公園や広場が花や緑で彩られている、通りへのごみの出し方・自転車の止め方のルールが守られている、街並みが個性的でまとまりが感じられる…。このような光景は、犯人に、「この地域は、住民の管理の手が行き届いているな」という印象を与えます。これが、地域の防犯に役立つのです。(1ページのコラム「割れ窓理論」も参照してください。)

これを踏まえ、防犯にも役立つ「地域をきれいにする」活動に取り組んでみましょう。ここでは、3つの例を紹介します。様々な人を巻き込みながら、犯罪の起きにくい魅力あふれる地域づくりを進めていってください。

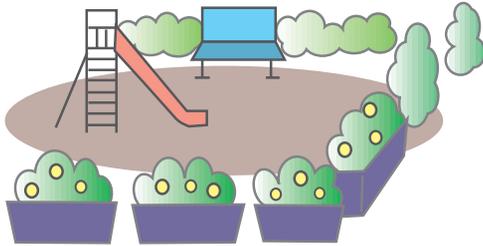


犯人はスキの多い地域を狙うと言われています

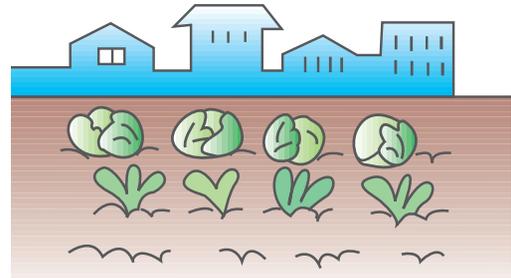


## 花や緑のある、潤い豊かな地域づくりを進めましょう

### 花いっぱい運動の例



道路や公園、駐車場にプランターを置く



空き地を菜園や花壇として活用する

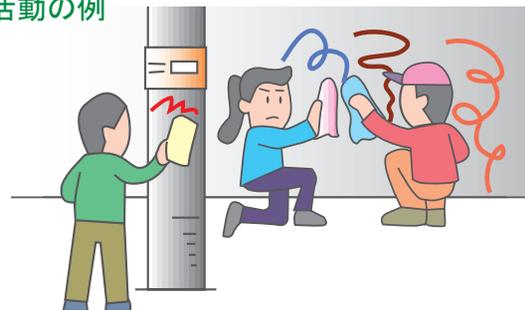
水やりや雑草取り、枝葉のせん定といった管理の面まで、地域の住民の皆さんが協力して取り組むことで、より一層、防犯上の効果が期待できます。

## ごみや落書きのない、美しい地域づくりを進めましょう

### 清掃活動、美化活動の例



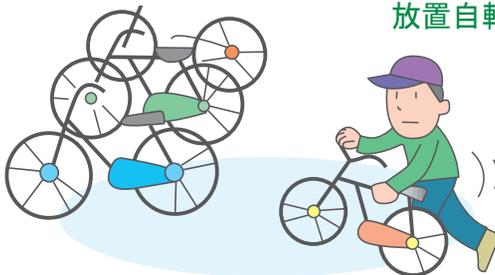
近くの道路や公園、校庭などに散乱したごみを掃除する



壁や柱の落書きを消す

## 放置自転車にも目を向けましょう

### 放置自転車対策の例



乱雑にとめてある自転車を整理する



指定場所以外に駐輪されないよう工夫する

路上にとめられた自動車は、犯人が身をひそめる場所にもなります。路上駐車にも注意の目を光らせましょう。

地域で暮らす住民の方や、防犯活動に取り組んでいる市民団体などが交流し、日ごろ考えていることを話し合ったり、地域情報を共有できるようになると、それぞれの活動を一層効果的に進めることができます。さらに、これらの人々が協力し合えば、地域一丸となった力強い取組が実現できます。

どうしたら、交流・協力し合えるような地域になるのか。ここでは、「地域のつながりを育てていく」ための取組を紹介します。

### 自分たちの存在、活動を地域にアピールしてみましょう



パトロール中に積極的に  
あいさつをする



広報や掲示板で活動内容を  
紹介する



活動への参加体験の  
イベントを開催する

地域中に活動が知られ、地域からの理解が深まっていけば、防犯対策の呼びかけに対して協力が得られるようになったり、活動への参加者が広がっていくことにもつながっていきます。

#### 様々な活動PRの例

- 1 パトロール中に地域の人に挨拶をする**  
活動の中で最も手軽にできるアピールです。また、犯罪を企てている不審者撃退にも有効です。
- 2 掲示板の活用やチラシの配布をする**  
掲示板のポスターは適宜差し替えることで、きちんと継続して活動していることを周知できます。
- 3 お祭りやキャンペーンに出店する**  
お祭りで防犯クイズやスタンプラリーなどを企画すると、地域の住民に活動の周知とともに、防犯啓発ができます。また、屋台等での出店でも、自治会町内会や他の団体との横のつながりができます。



## 地域の中で、情報交換する機会を設けましょう

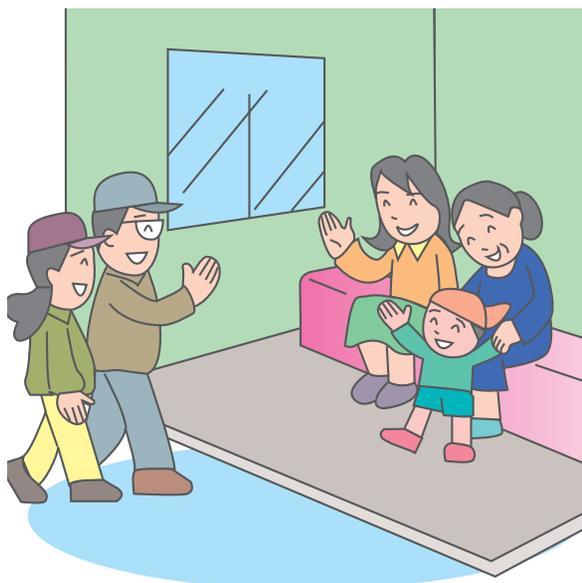
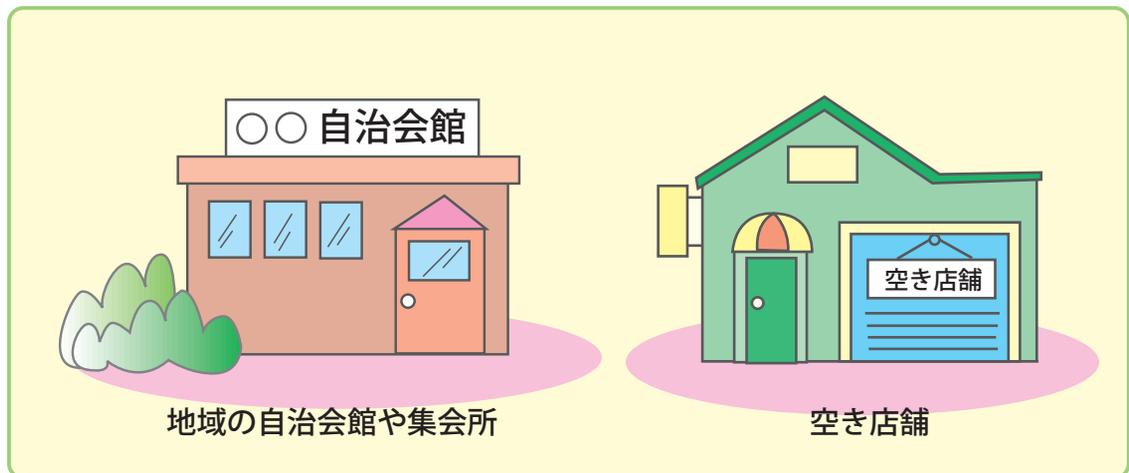


### 情報交換のテーマの例

- ・「地域の犯罪発生や不審者の出没状況」や「地域の子どもやお年寄りが感じている不安感」についての情報共有
- ・「それぞれの活動内容と、直面している課題」「今後の活動の進め方」についての意見交換

## 人々が気軽に集える防犯拠点を設定しましょう

こんな場所を防犯拠点として使ってみましょう



### 使い方の例

- ・防犯に関する情報を集め、発信する場所にする
- ・活動団体の休憩所や、情報交換の場所にする
- ・防犯に関するイベントを開催する

また、防犯拠点は、地域における子どもやお年寄りの居場所づくりと関連付けたりしながら、「気軽に地域の皆さんが集まってくる〈たまり場〉」としても開放していきましょう。地域での人と人とのつながり、地域コミュニティを育みながら、地域全体に防犯意識を浸透させていきましょう。

これまで紹介してきた様々な取組と並行して、地域の安全点検に取り組んで見ましょう。「犯罪にあいにくい環境かどうか？」という視点から地域を点検します。点検結果を整理した地図をもとに、地域と行政が連携して問題解決に当たっていきましょう。

なお、安全点検には、「一人ひとりが自ら危険を避ける能力を身につける」「地域に対する愛着やコミュニケーションを図る」「地域住民間の意見を集約する、情報を共有する」などの効果もあると言われています。

## 地域の安全点検を実施し、マップをつくろう

### ① チームを組みましょう

複数のチームがある時は、担当する場所（通学路チーム、公園チーム等）や、テーマ（生け垣チーム、照明チーム等）を決めても良いでしょう。

### ② 地域に出て調査しましょう

#### 調査の視点の例

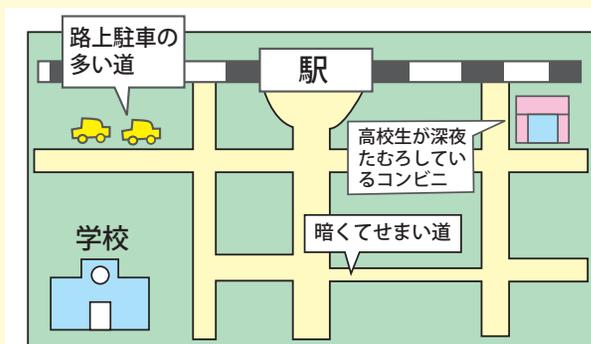
- ・ 犯罪が実際に発生した場所
  - ・ 落書きやゴミが散乱している場所はないか
  - ・ 路上駐車が多い場所はないか
  - ・ 周囲から見通しが悪い場所はないか
- ※既に改善された場所をチェックしても良いでしょう。

#### 夜間の視点の例

- ・ 夜間の犯罪発生場所
  - ・ 照明が不十分な場所はないか
  - ・ 植栽等により街灯が隠れている場所はないか
  - ・ 若者がたむろする場所はないか
- ※昼間と夜間では、まちの様子も、犯罪の種類も異なります。夜間の点検も実施しましょう。

### ③ マップにしましょう

- ・ 地図に、点検ルート、危険を感じた場所と理由、対応策などを書き込んでいきましょう
- ・ 撮影した写真を貼りましょう
- ・ マップができたら、地域の皆さんへ発表しましょう





## 地域のまちづくり計画を考え、実行しよう

地域の安全点検に加え、現在地域活動を実施している個人や団体にヒアリングをして、それぞれの活動状況や課題などを整理してみましょう。また、警察や行政にヒアリングをして、地域の犯罪発生状況を把握しましょう。

これらの成果をもとに地域で話し合い、防犯に関するまちづくり計画を考えてみましょう。防犯パトロールや美化活動を重点的に行う箇所、屋外照明（門灯や玄関灯、駐車場の街灯等）の点灯を住民の方をお願いする場所、公園の改善やガードレール設置といったハード整備が必要な箇所などを明らかにし、実際のまちづくりにつなげていきましょう。

●地域の安全点検を行う  
→参照：左ページ

●犯罪発生傾向を調べる  
(時間、場所、罪種など)  
→警察や行政などに聞く

●防犯活動の状況を調べる  
(いつ、どこで、誰が、何を)  
→活動団体、個人などに聞く

### 地域で話し合う

- ・地域の課題をみんなで考えましょう
- ・マップを使って整理することも効果的です

### まちづくりを考え、実行する

- 地域の目標を共有する
- 具体的な取組を考え、実行する

#### 【取組と役割分担の例】

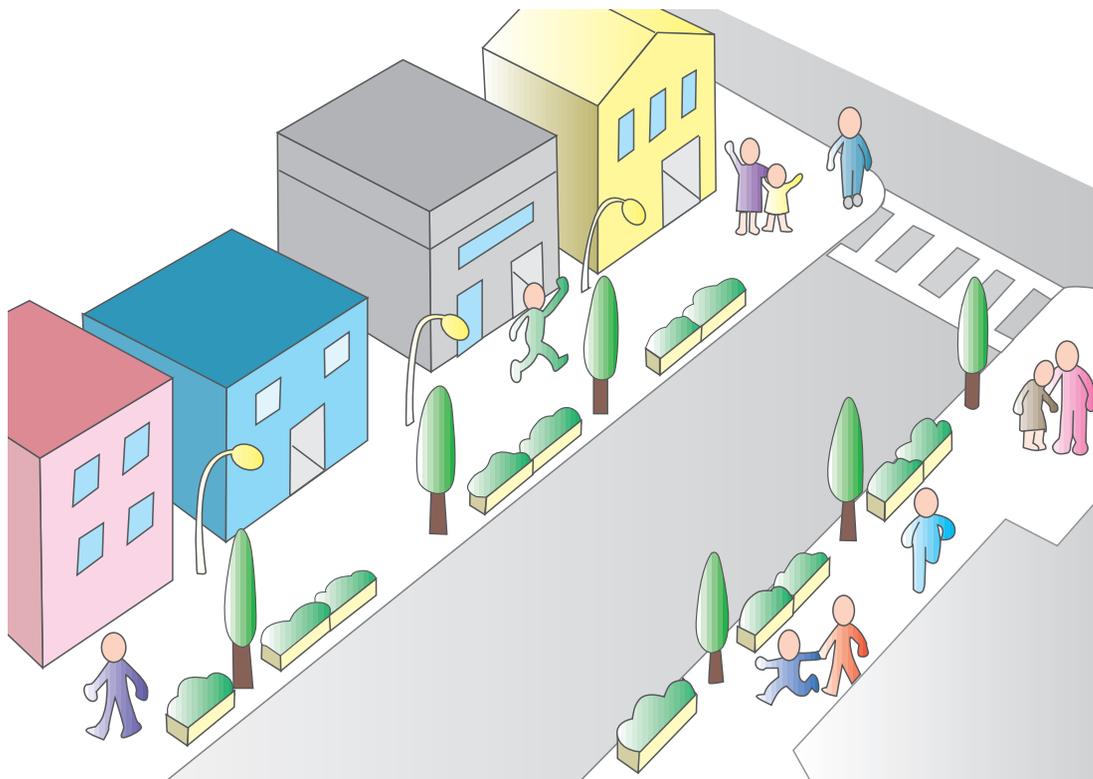
- ・パトロール重点箇所  
→自治会、PTAが協力して進めよう
- ・屋外照明の点灯のお願い箇所  
→自治会、商店会から呼びかけよう
- ・学校前の道路の改善と維持管理  
→行政へ整備をお願いしよう  
→維持管理は小学生とボランティアで



▲道路の整備と住民による維持管理

## 道路のチェックポイント

- 周囲からの見通しを確認しよう
- 道路の明るさを確認しよう
- 歩道と車道の分離、バイクなどのスピードの抑制措置がなされているか確認しよう



### ① 防犯灯、街路灯などの設置、点灯

- ・ 暗がりがないか
- ・ 明るさの格差が激しい箇所はないか
- ・ 農地や周辺建物への光害を起していないか

### ② 植栽の配置、維持管理

- ・ 樹木が街灯を隠していないか
- ・ 車道、歩道、沿道の建物や駐車場などからの見通しを遮っていないか

### ③ 歩道と車道の適切な分離

- ・ ひたくりが多い所では、できるだけ、ガードレールや段差、植栽などで、適切に歩道と車道が分離されている歩道を通りましょう

### ④ 沿道の建物からの「人の目(視線)」「あかり」

- ・ 沿道の垣、柵が、沿道建物からの視線を遮っていないか（プライバシーにも配慮が必要）
- ・ 沿道建物の門灯・玄関灯、庭園灯、窓などのあかりを、うまく活用できているか

### ⑤ 駐車場の明るさ、見通し

- ・ 駐車場内や出入口が、適切な明るさになっているか
- ・ 周囲の道路や建物等からの見通しが確保されているか

ごみや落書きの掃除、路上駐車や放置自転車の対策、沿道の緑化などにも取り組みましょう。点検中に会った地域の人などに、声かけやあいさつを行いましょう。



## 公園のチェックポイント

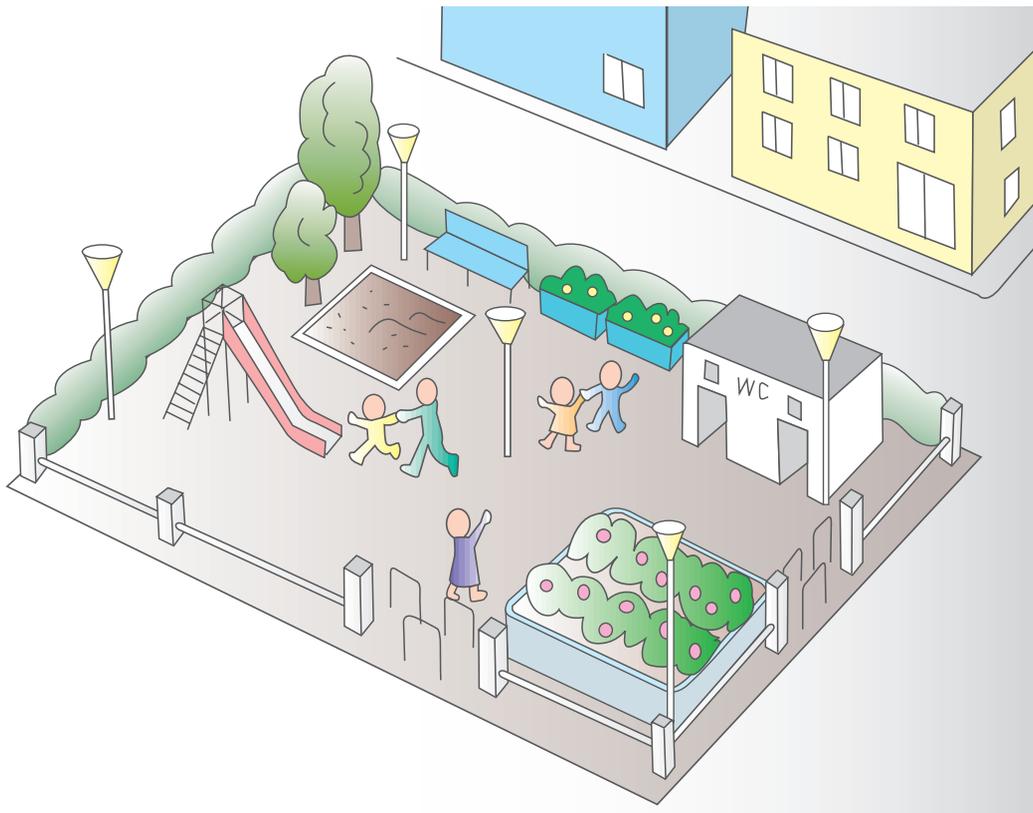
■周囲からの見通しを確認しよう

■公園内の見通しを確認しよう

(子どもを見守れるか、死角はないか)

■適切な明るさを確認しよう

■トイレなどの安全性について確認しよう



### ①周囲の建物からの「人の目(視線)」「あかり」

- ・垣柵が、周囲の建物からの視線を遮っていないか(プライバシーにも配慮が必要)(周囲の建物などへの侵入対策が必要)
- ・沿道建物の門灯・玄関灯、庭園灯、窓などのあかりを、うまく活用できているか

### ②植栽の配置、維持管理

- ・樹木が公園灯を隠していないか
- ・道路や周囲の建物や駐車場などからの見通しを遮っていないか

### ③公園灯などの設置、点灯

- ・公園内や出入口が、適切な明るさになっているか

- ・明るさの格差が激しい箇所はないか

- ・農地や周辺建物への光害を起こしていないか

### ④トイレの安全性

- ・出入口は、周囲からの見通しが確保されているか
- ・出入口やトイレ内は、適切な明るさになっているか(必要に応じ、非常ベルなどを設置)

### ⑤遊具やベンチなどの配置、維持管理

- ・周囲から見やすい場所に置かれているか
- ・ベンチや遊具が、公園の死角を生み出していないか

ごみや落書きの掃除、たむろ行為や不法占拠の防止にも取り組みましょう。  
緊急時の通報装置や公衆電話などの必要性も考えてみましょう。

# 問い合わせ先

平成26年4月1日現在

## 犯罪情報の提供について

お近くの警察署

自治会・町内会などの地域活動支援  
(防犯活動グッズの貸与や提供など)

各区地域振興課  
(磯子区における防犯グッズ貸与は総務課)

## 防犯活動のための情報提供、活動支援

神奈川県安全防災局安全防災部  
くらし安全交通課

- 防犯教室、非行防止教室、各種キャンペーンへのくらし安全指導員の派遣など

電話045 (210) 3520

- 神奈川県の自主防犯活動団体等支援制度
  - ・ 事故給付金制度
  - ・ 安全・安心まちづくり団体事業補助金

電話045 (210) 3517

## ボランティア活動の支援(活動保険など)について

- 横浜市市民活動保険

各区総務課

- 横浜市ボランティアセンター  
( (福)横浜市社会福祉協議会)

〒231-8482 中区桜木町1-1  
(横浜市健康福祉総合センター8F)  
電話045(201)8620 FAX 045(201)1620  
メール : yvc@yokohamashakyo.jp  
利用時間 : 月～金曜 9:00～21:00  
土、日、祝 9:00～17:00  
(毎月最終月曜日、その他機材点検日休館)

## こんな制度もあります…

- ハマロード・サポーター (身近な道路の清掃や美化活動等を行うボランティア団体を募集しています)

各区土木事務所管理係

- 安全・安心な商店街づくりモデル事業

自主防犯活動を実施する商店街に対して  
街路灯の電気料金の一部を補助します。

経済局商業振興課  
電話045 (671) 4235

# 不審者を見かけたら……

## ◆不審者を見かけたら、速やかに警察へ通報しましょう

「建物の窓から出入りしている」「パトロール活動を見てあわてて逃げ出す」といった不審な人や車などを発見したり、事件を目撃したら、無理をせずに、速やかに警察へ通報しましょう。

### <対応のポイント>

#### ●不審者を追いかけたり、声をかけたりしない。

相手が小柄でひ弱そうに感じたとしても、凶器を所持している場合もあるため、危険な目にあう可能性もあります。

#### ●不審者の特徴、車両のナンバー、逃走方向などをメモする。

不審な人の特徴（人数、性別、年齢、身長、体格、服装、髪型、所持品など）

不審な車両の特徴（乗用車・バイク・自転車などの種類、色・型・ナンバーなど）

#### ●現場の位置を確認し、迷わず110番に通報する。

### <110番通報のポイント>

一般電話、公衆電話、携帯電話のいずれからでも、「110」を押すことにより110番通報を受理する「警察本部通信指令室」につながります。通報を受けた警察官は、次のような点について順を追って聞きますので、落ち着いて話してください。

- ・何があったのか
- ・いつ、どこであったのか（場所の町名番地、目標物など）
- ・不審者の特徴（性別、服装、車両、ナンバーなど）
- ・逃走した方向
- ・被害の状況
- ・通報者の名前など

- 発行 平成18年3月
- 改訂 平成26年4月

横浜市市民局市民協働推進部地域防犯支援課

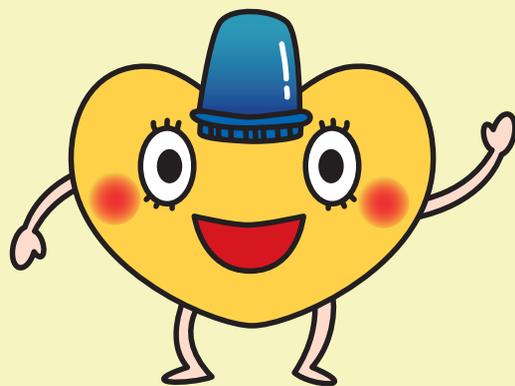
〒231-0017 横浜市 中区港町1-1 TEL045-671-3705

FAX045-664-0734

- 広報印刷物登録番号 第170574号 類別・分別 BDA030

**R100**  
古紙配合率100%再生紙を使用しています

こんにちは！ パト・ハートです！



「パト・ハート」

あいさつ大好き。お散歩大好き。  
地域みんなの心が防犯に通じると信じている。  
安全・安心できるまちづくりを目指し、日々防犯パトロール中。

子どもの安全や防犯に関する活動に、より親しみをもってください、  
子どもたちを地域みんなで守っていくための「シンボルマーク」です。